



# 茜の空

令和6年度 第7号  
発行日 11月6日(水)  
練馬区立石神井南中学校  
校長 木原 賢三

## 「Hey 和」

校長 木原 賢三

校庭の木々も少しずつ色づき始め、秋色に染まり落ち着いた雰囲気醸しだしています。10月16日にルネこだいらで行われた合唱コンクールでは多くの保護者・地域の方にご来場いただき、生徒の真剣に合唱に取り組む姿を応援していただき、誠にありがとうございました。1学期より、実行委員を中心に、「歌声響鳴～輝く歌声遥か届けよ～」のスローガンのもと、学年・学級の想いを1つにするため、様々な葛藤がありながら、練習に取り組んできました。その成果で、それぞれのクラスの個性を生かしながら、素敵なハーモニーをホールいっぱいに響かせていました。特に3年生においては、中学校生活最後の合唱コンクールにかける想いを歌にのせ、どのクラスも力強い素敵な響きをホールいっぱいに響きわたらせていました。3年生の課題曲「Hey 和」はゆずさんの曲で、遠くにある平和とかではなく、自分のことのように思える平和の歌にしたいと考え、平和への祈りをこめて贈られたメッセージソングです。歌詞の中で「すべてを奪う争いは今もまだやまない。」そして、「捨てない希望、守り続けていく。願いを込めて今想いは繋がる。」と綴られます。今なお、世界では、ロシアによるウクライナ侵攻や中東での大規模な紛争が続き、戦争の脅威がかつてないほど高まっています。「いつも君がいるから」とホールいっぱいに響く3年生が奏でる平和への祈りは、世界平和への期待と希望のメッセージであると感じました。

さて、ノーベル平和賞が日本原水爆被害者団体協議会（被団協）に授与されることが決定しました。「核兵器のない世界の実現」に向けて、地道な活動を通じた平和への貢献が認められたものです。世界各地で軍事侵攻や紛争が続き、核使用の脅威がかつてないほど高まる中、「被爆者（ヒバクシャ）」の声こそが抑止力だという期待と希望のメッセージです。決定の翌日、本校では道徳授業地区公開講座で被爆体験伝承者の方をお招きしご講演いただきました。講演者の父親が79年前の広島で被爆し母と弟を失った体験を語っていただきました。講師の方からは、原爆の悲惨さとともに、父親が戦後も「何の罪もない母や子供たちが原爆によって一瞬にして奪われ、当たり前前の日常が失われてしまった。なぜ、失われなければならないのか。」と嘆いていた話等も語られました。生徒たちは、「原爆の悲惨さが伝わり、心が痛みました。「もし、自分だったら」と考えると本当に恐ろしいです。」「二度と悲劇を繰り返さないようにするために、世界から核兵器をなくしていくことが必要なことを痛感した。」等、感じたことを記しました。歴史を学ぶということは、過去の出来事をただ暗記することではなく、現代を考えること、そして、自分のこれからの生き方を考えるということです。平和の尊さや生命の大切さを学び、未来の平和な社会を実現しようとする心を育むとともに、学んだ知識や感じたことを生かし、自分の行動を変えて社会で生かし、後世に伝えていくことができるようにしてほしいと願っています。被団協の方の言葉は次のようにつづきます。「戦争は終わっていない。今私たちはその続きを生きています。今なお1万2000発以上の核兵器が地球上に存在しています。核の問題は私たちの未来の問題でもあります。79年前におこった原爆の悲劇をきちんと受け止め、風化させないことが、今、私たちにできることだと思います。」

被団協のノーベル平和賞は、ゴールではなく始まりです。核を使わせないように、私たちが創造力を働かせ、自分たちで考えて行動していくことが必要です。

石神井南中では、「豊かな心を育む」ことを教育目標の第一に掲げ、平和学習を重要な柱の1つとして教育活動に取り組んでいます。そして、平和学習の大きな目的は、全ての人の命と人権が尊重され、みんな安心して暮らせる社会を創っていくことです。石南中から未来の平和な社会が実現するように、一人一人の生徒が自分で考えて、行動できる人になれることを期待しています。今後とも、保護者・地域の方のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

10月16日(木) 合唱コンクール



第1学年 学年合唱  
課題曲 Let's search for Tomorrow

第2学年 学年合唱  
課題曲 時の旅人



第3学年 学年合唱  
課題曲 Hey 和

有志合唱 60周年歌 未来へ架ける虹 作詞 田邊 克宣 作詞 近藤 祐介



吹奏楽部の発表

